

逆説の日本史 21 幕末年代史編4: 高杉晋作と維新回天の謎  
(小学館文庫)

井沢元彦

MOTOHIKO IZAWA

逆説の

THE PARADOXICAL JAPANESE HISTORY



高杉晋作と  
維新回天の謎

日本史

21 幕末年代史編IV

◆ いずれにせよ、この四境戦争小倉口の戦いが軍事の天才高杉晋作の生涯における最高傑作であったことは間違い無い。  
むしろ最高傑作であったからこそ、昭和の後輩たちも魅了したのであった。  
だが、凡人には天才の真似は出来ない。  
そして高杉はこの時、当時は不治の病であった肺結核の病状が進行しており、すでに末期に近い状態であった。  
高杉は最後の力を振り絞って、この戦場に臨んだのである。

◆ 私は、この「倒上作戦」というものを、じつは勝は実行する気はまった〈無かった〉と考えている。そんなことをすれば、勝からいり望んでいない戦争の長期化へ事態は進んでしまうのではないか。  
それに勝は武士とか町人とか身分で人を差別しない人間だ。  
私は勝が一般の庶民が「生命を助かれれば、まずそれで良い」と考えているとは思えない。(中略)  
一刻も早く日本人が閉鎖しなければいけないと考えている勝が、そんなことをするあけが無いではないか。

小学館文庫

発売日: 2018年5月8日

出版: 小学館

著者: 井沢 元彦

ページ: 494

PDF

<https://rapidgator.net/file/bea4ede685fe41e4eee8b88ce7e2602b/7LG6gpquL.pdf.rar.html>